「表現の生態系」のなかへ

私たちはあらゆるところで表現と出合います。
大きな、小さな、カラフルな、控えめな、形式ばった、気ままな…表現で世界は満ち溢れています。それは机やアトリエで生み出されることもあれば、道を歩きながら、誰かと話しをしながら、孤独に耐えながら発せられた声が、誰かの耳に届き、共鳴し、ひとつの存在（不在）に気づく経験です。

美術館を出て活動を行うことで私たちは、そうしたいろいろな声が響き合う「表現の森」のなかを歩いてきました。もともと異なると思われていたもののあいだに、有機的なつながりを見つけ出し、それらが縒り合わされ、新しい場所へと導かれていく。アーツ前橋は、福祉、教育、医療などの分野と協働して行う〈表現の森〉プロジェクトを 2016 年に開始し、現代社会において分断されている生の全体性を「表現」を通じてつなぎなおすような試みを行ってきました。

それらのプロジェクトを経て企画された本展覧会「表現の生態系　世界との関係をつくりかえる」は、現代だけでなく歴史や異なる地域を横断しながら、すでに私たちに与えられている世界との関係をつくりかえていく可能性を切り拓いている 31 組のアーティストの作品やプロジェクトを紹介するものです。同時に発行されるこの展覧会のコンセプトブックでは、「Worlding（参加する意識）」、「時層」、「メッシュワーク」という三つのキー概念を軸に、皆さんを「表現の生態系」へとお招きします。「人新世（アントロポセン）」と呼ばれる地層時代区分によって、産業化や戦争などが地球に与えた大きな影響を認識すると同時に、自然環境の大きな力を再認識している私たちはこれからどこに向かうのでしょうか。小さな声に耳を澄ますことは、どのように人間同士、あるいはそのほかの有機物や無機物との共存へと私たちを導くのでしょうか。世界はただ眺められるのではなく、きっとあなたの関与を待っています。

2019 年 10 月　アーツ前橋館長　住友文彦